

平成27年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	技術開発支援事業(共同研究)	事業経緯	継続	実施体制	主催	担当所属	企画部
事業名 (大項目)	調査研究及び研究助成事業	分類名 (中項目)	大学連携等による調査研究事業		事業区分	助成(応募型)	

1. 事業目的

公募型助成事業の一環として、北陸地域の社会資本整備に係る地域づくり、産業振興、建設技術等に関する課題等の解決に向けた技術開発・調査研究を行う研究グループ(大学もしくは高専を含む2機関以上で構成)を支援し、地域のさらなる活性化と地域振興を図ることを目的とする。

2. 事業実施体制

- ◆共同研究1
「オリジナル統一凡例による5万分の1長野県地質図の活用普及事業」
富樫 均(長野県環境保全研究所)他5名
- ◆共同研究2
「ソルガムが拓く地域自立型環境モデルの開発」
天野 良彦(信州大学)他7名

3. 事業実施概要

- ◆共同研究1<新規>
長野県を対象に、統一マトリックス方式の新たな凡例のもとに縮尺1/5万のシームレスデジタル地質図をまとめ、その情報をベースに学習プログラムの開発や市民・行政が対象のシンポジウム・説明会を実施した。
11月16日、17日に活用のためのシンポジウムを長野市と松本市で開催。
- ◆共同研究2<新規>
過疎化が進む中山間地域でソルガムを栽培し、子実は穀物、茎葉はキノコ培地や肥料、メタンガス発電に利用し、畑地に戻す循環型の農業システムを確立する。今年度は「栽培体系の確立」と「子実の活用」を実施した。
食品コンペを11月26日長野市で実施し、商品化に向けたパイヤー等との調整を行った。

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

地域の安全・安心に資する地質図の活用普及および地方が抱える課題解決に向けた循環型農業システムの確立に関する2件の調査研究を実施した。
地質図の活用は市民・行政に対し成果を直ちに還元し、ソルガムは地域をフィールド(長野市七国会地区)として、アクションリサーチ型で実施し、地域住民の意識や反響なども把握した。
各研究者の専門性を活かし、地域の活性化が一層促進されると期待できる。

◆共同研究1

シンポジウム(H27.11.16, 17)



◆共同研究2



食品コンペ(H27.11.26)
↓ チラシ



報告書の一部